

「なんでおそらからおちてくるの？」

～緑ヶ丘保育園・米軍ヘリ落下物事故から2年～

普天間バプテスト教会／付属 緑ヶ丘保育園

牧師／園長 神谷武宏

「なんでおそらからおちてくるの？」とは、2017年12月7日に普天間バプテスト教会付属緑ヶ丘保育園の屋根の上に、米軍大型輸送ヘリコプターCH53Eの部品が落ちて来たことを受けて、園児が発した言葉です。この言葉に大人は何と答えますか。

緑ヶ丘保育園は、1964年4月に開園し、今年55年目が経過しました。60年代というと、当時この地域には保育園がなく、赴任してきたばかりの名護良健牧師ご夫妻が、幼い子どもたちが危険な場所で遊んでいた状況を見るに見かねて、子どもが安心、安全な場所で遊べるような環境を作ってあげたい、幼い子どもを抱える親御さんを助けてあげたい、そのような思いから、教会に隣接する100坪余りの土地を借りて園庭を確保し、保育園を始めて行くのです。園庭は子どもたちが安心・安全に遊べる場所としてあるわけです。しかし、空から雨以外のものが落ちてきたのです。

午前10時20分ごろ、園庭には、2歳、3歳児クラスの子どもたちが、天気の良い青空の下で遊んでいました。園上空を米軍ヘリが通過すると同時に、突然、ドーンという激しい音が園内に響きました。その音で振り返った保育士は、屋根の上で大きく跳ね上がる物体を見えています。その屋根の下は、1歳児クラスの部屋で、今から園庭に出ようかとしている時でした。ドーンという衝撃音に幼い子どもたちは、「わーっ」と声を上げ、先生方も一緒に驚きました。その物体は屋根の上でわずか50cmのところで止まっていたのです。あと50cmずれていたらと思うと「ぞっと」します。米軍は、落下物の「もの」自体は、米軍の物だと認めましたが、ヘリ飛行中に落としたものではないと否定しました。米軍がヘリから落としたものではないというのであれば、どこから落ちて、誰が落としたというのでしょうか？落下を認めない米軍は、翌日もいつもと変わらず、米軍ヘリやオスプレイが子どもたちの上空を飛び交っています。

この事故を受け当園父母会が立ち上がり、嘆願書作成（①事故の原因究明、および再発防止、②原因究明までの飛行禁止、③普天間基地に離発着する米軍ヘリの保育園上空の飛行禁止）、署名活動（約14万筆）、県（3度）や市（3度）、沖縄防衛局（3度）、外務省沖縄事務所（2度）、米国領事館へ出向き、東京政府要請行動（2度）など、また事あるごとに講演会や記者会見を実施して、メディアを通して訴え続けてきました。し

かし、未だ保育園上空を米軍機が飛び交っています。

今年、宮森小学校ジェット機墜落事故から 60 年目を数えます。死者 18 人、負傷者 200 人余の大惨事でした。このような死傷者が出る事故はもう起きないのでしょうか？ 沖縄の現状に向き合えば今日、明日にでも起きかねない状況が見えてきます（※1961 年 12 月 7 日、米軍「川崎ジェット機墜落事故」で死傷者発生）。

現在、父母会の活動は「チーム緑ヶ丘 1 2 0 7」として活動を続けています。今月 12 月 6 日には三度目の政府要請のため東京へ出向きます。私たちは諦めません。「なんでおそらからおちてくるの？」という問いに、「もう大丈夫だよ、空からは雨しか降ってこないよ」と答えるために。